

日本の浮世絵芸術と季節の料理を味わう会 （太田記念美術館と青山きくまさ）

日時 2011 年 11 月 19 日（土） 16：00～20：00

参加者 太田知子、近藤美恵子、千葉由一、木村隆、小川眞一、松田春樹、水野二十一、
加藤俊和 （敬称略）

天気予報どおり雨が激しくなった午後の4時前、原宿の太田記念美術館に集まった方々は、太田さん、小川さん、松田さん、水野さん、私の5名。

美術館では現在「浮世絵 戦国絵巻 ～ 城と武将」の特別展が開催されており、浮世絵ファンに限らず、歴史好きの人にはたまらない展覧会である。

山崎大合戦之図、関ヶ原合戦之図、大阪の陣之図、各地の名城、等見所は満点。面白いのは徳川時代後期には幕府の規制が厳しくなり、武将の実名を変えるなどしてその規制を逃れる工夫がなされているところだ。例えば 羽柴秀吉は「真柴久吉」、加藤清正は「佐藤正清」、福島正則は「浮島正則」、石田三成は「岸田光成」で描かれており、思わず笑ってしまう。

この太田記念美術館の所蔵する浮世絵の名品は魅力に溢れ、世界的にも有名で外国人の鑑賞客も多く訪れる。

美術館での浮世絵鑑賞の後は表参道ヒルズを道草し青山のレストラン「きくまさ」に向かう予定だったが、一向に収まらない強い風雨に散策はあきらめ、地下鉄で南青山の「きくまさ」に向った。

お店に着くと店内は既に千葉さん、木村さんが店内を暖かくしてくれていた。少し遅れて近藤さんが着き8名全員が集合、乾杯となった。

今日の料理は 「遊膳（ゆうぜん）」（コース料理）という日本料理である。まず季節感たっぷりの色づいた葉をお皿に敷き、その上にバランスよく食材を添えた前菜から始まり、お椀、お造り、ぶり照焼、揚げ物、煮物、焼きおにぎり茶漬、最後は袱紗大福のデザートで締めるといふ、とても品のあるバラエティーに富んだコースもので、大満足であった。

各自好きな飲み物を注文、ビールにお酒にワインが重なり、皆さん饒舌さわやかとなり、

友人の消息、年金の話、原発問題、そしてうんちくある江戸の歴史の話などが飛び交い、あっという間にお開きの時間になってしまった。

今回が初参加の私にとっては皆さんとお会いするのは高校卒業以来であり、46 年ぶりの再会ということになる。少しふくよかになられた方、相対的に額の面積が増えた方、白い髪の方が多くなった方等さまざまだが、皆上手に年輪を重ねてこられたので、昔の面影はそのまま残っており、その上品さに半世紀前の学生時代にタイムスリップしながら、さすがは我が母校 “旭丘高校の生徒達だ！” と、一人で勝手に自慢してしまった。

うかがえばこの「旭丘 17 期料理と散策を楽しむ会」は今回で 20 回目と歴史ある会であり、皆さんは世界各国の料理を食べ歩いている道半ばとのこと。次回は来年 6 月に“ロシア料理”を楽しむ予定となった。 （文責 加藤俊和、画像提供 水野二十一）



満腹顔の参加者全員の写真 （青山きくまさ）



そろそろお開きの時間 (青山きくまさ)